

土岐頼兼と常盤姫伝承の地に残された

# 謎の戦国山城

美濃国恵那郡遠山莊明智村  
仲ノ深山砦

なかのみやまとりで

## 仲ノ深山砦



土岐明智城（多羅砦）から見た一夜城、明知城、仲ノ深山砦



東側曲輪の背後に設けられた二重堀切

### 【仲ノ深山砦の概要】

仲ノ深山砦は、標高 520m、比高 70m。城域は、中央付近の堀切を挟んだ東西二つの曲輪群から構成されている。

東側の曲輪（東西の長さ約 90m）は背後を深さ約 2 m の二重堀切で画し、その内側に高さ 1 m の土塁を設けている。土塁の内側の曲輪面は内部に起伏を残している。曲輪の北側裾には帯曲輪が巡り、その東端部には畝状堅堀群が 3 本、間隔を空けて設けられている。

西側の曲輪（東西の長さ約 80m）は周囲を高さ約 4 m の切岸で囲まれ、その裾には帯曲輪が巡る。帯曲輪の南側緩斜面には 4 本からなる畝状堅堀群が設けられている。南西及び西側には堀切が設けられ、北西斜面には 1 本の長い堅堀があり侵入者を東側斜面に回り込ませないために設けられたものと考えられる。

この砦は、当初西側の曲輪が設けられ、その後東側の曲輪が拡張され、時期を隔てて畝状堅堀群が設けられたものと想定される。

明智町中心部の街並みを取り囲む山々に、5つの戦国山城（明知城、仲ノ深山砦、土岐明智城、一夜城、諏訪ヶ根砦）が築かれている。仲ノ深山砦は街並み東南の明智川に面した山頂に築かれ、明知城とは谷を隔てただけで、直線距離で約 200m しか離れていない。

旗本明知遠山氏の記録「明知年譜（乾）」に、「明知城南二字万ヶ洞ト云ハ、信州ヨリノ往還街道明知ヘノ処タリ、依テ要害ノ為ニ遠山与惣左衛門屋敷構アリ」と記されている。

この砦に相当すると考えられる城館が、仲ノ深山砦の名称で伝承されている。

### ▶ 3度の災難を逃れた常盤姫の観音像

約 700 年前の鎌倉時代、土岐頼兼の後室に明智村の豪族の娘、常盤姫が嫁いでいましたが、臣下の嘲笑を受け土岐川淵（瑞浪市）に身を投げられました。

姫は守仏として観音像を抱いており、観音像は臣下によって姫の出生地、明智村的場地内に祀られ、光山寺として供養されてきたという伝承が残っています。この観音像は 3度の災難を逃れ、現在も地域で守り続けられています。

（土岐頼兼と常盤姫の伝承は瑞浪市にもあり、土岐川に常盤淵があります。）

### ▶ 砦の住人を弔った光山寺と五輪洞

仲ノ深山砦東側曲輪の東端から眼下の明智川に向かう尾根に、かつて砦の住人を弔った光山寺が在りました。火災により焼失し、その後近くに移転再建されましたが、再度水害で流失、現在は的場町光山寺集会所に姿を変えています。

また、光山寺が在った尾根の東側の谷筋付近は地元で五輪洞と呼ばれ、かつては寺の墓地で五輪塔が建てられていました。昭和 40 年代の豪雨災害で大半が流失しましたが、畑から僅かに掘り出された塔がその名残を留めています。

